

令和7年度 生田東高等学校 学校運営協議会 第1回未来へつなぐ学び部会 議事録

実施日時・ 場所	令和7年10月21日(火) 13:00～13:40 専修大学 生田キャンパス 9号館2階 92E 会議室
出席者	学校運営協議会委員 2名 教職員 7名
	<p>(1) 副校長挨拶</p> <p>本日はお集まり頂き、ありがとうございます。二年生の修学旅行随行のため、校長が不在にしておりますので、代わりに挨拶をさせていただきます。本校はICT利活用授業研究を推進しており、生成AIなどを活用し、効果的で深い学びを目指しております。また、高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）に採択されており、デジタル人材の育成を目指しております。本年はラボの整備を進めており、これから10台新しいパソコンを導入する予定です。11月7日には公開研究授業も予定しておりますので、是非ご高覧ください。</p> <p>一方、本校では通級による指導も行っております。支援が必要な生徒は年々増加傾向にあり、教員がさまざまな支援を行っております。</p> <p>本日は、皆様から忌憚なくご意見をいただき、学校運営に活かしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>(2) 本校の近況、今年度の取り組みについて</p> <p>DXハイスクール、ICT利活用推進校の指定を受け、これまで、協働する力、探究する力、自ら学びを調整する力の育成を目指した授業の実践を目指してきました。本年は、これらの3つの姿に加え、「問いを推進力とする授業作り」を目指しています。答えは生徒それぞれにあり、それにたどり着くまでの過程を重視しており、「問い」が生徒の思考を深めるとの想定の下、研究を進めています。その過程で、Chat GPT や Canva などのソフトを活用しています。</p> <p>また、DXハイスクールに採択されたことで、新しいカリキュラムとなり、生徒にとって個別最適化された学びの実現に向けて取り組んでいます。</p> <p>本校の生徒に対しての進路指導は、狙いを明確にした段階に応じたガイダンスを実施し、事故防止に留意しながら、個別の進路指導の実現に向けて多様な入試制度に対応できるように指導を充実させています。</p> <p>(3) 意見交換</p> <p>・生田東高校はDXハイスクール等の指定を受けているが、そのことを目指して入学する生徒は増えてきたのでしょうか？</p> <p>→1年生の様子を見ているとICTを活用とした授業を受けたいというよりは、他の要素で入学してきているように思われます。一方で、授業でのICT活用が私生活にも及んでいるように見受けられます。</p> <p>・探究する上での「問い」を重視した「発問力」の育成はどのようになされているのでしょうか。「どのような問いをするか」によって「回答」は変わってきます。例えば、AIを活用した問いの仕方の工夫はどのようなものなのでしょうか？</p> <p>→先生ごとに活用方法があります。あえて、「AIが出した答えに反論してください。」という授業を展開している教員もあり、工夫がなされています。生成AIの出典を批判的に見る、ということが大切で、そ</p>

	<p>れを指導できるのは教員であると考えています。生成 AI の使い方の指導において、自分の考えを持ちながら活用することが大切です。「正解は出してくれないが、最大公約数的な意見は教えてくれる」との認識で、活用する側のリテラシーに左右されるということを常に意識したいです。一方で、事務的な通知文の作成などテンプレートに基づいた文書の作成においては素早く適切なものを提案できるなど、業務の時短に役立っており、AI の得意・不得意を活用する側が認識することが大切であると感じています。</p> <p>・進路指導における「内部での事故防止の徹底」はどのように実施しているのですか。</p> <p>→進路の事務手続きに関して、チェック機能を上げるよう努めています。</p> <p>ウェブ出願のやり方が大学によってまちまちであり、デジタルに伴った煩雑さが増えています。ヒヤリ・ハットについては、先日事故防止研修を実施しました。</p>
--	---